

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	8 月	22 日	記入者	久門たつお
調査者名	大谷	垣内	久門	鶴田	

文化財名	猫塚古墳(奈良市に同名の古墳があり、区別するため五條猫塚古墳とも呼ばれる)				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	2013年(平成25)3月29日				
所在地	五條市西河内町388				
所有者 管理者	個人				
員数	1基				
時代区分	古墳時代中期(5世紀中ごろ)				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	有り(県教委設置で、出土品の写真、平面図も示され詳細)				
公開	見学自由。				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ()				
当面の課題	春から秋にかけて雑草が繁茂するため、古墳が方墳であることや、墳丘の外形がよく分らないのは仕方ない。五條市教委文化財課によると、冬場は雑草が枯れ、墳丘に登ることができるという。				
今後の課題	1955年(昭和30)に墳丘に手が加えられる事態となり、県立橿原考古学研究所が発掘。盗掘されていたが、全国的に例のない蒙古鉢形眉庇付冑(もうこぼちがたまびさしつきかぶと)1点が発見された。文化財の保存と活用の流れからは、この猫塚古墳、木製埴輪が確認されたつじの山古墳、飛鳥の川原寺の瓦を焼いた荒坂窯跡などがある北宇智エリアを巡る探訪会が五條市などによって定期的実施されることを望みたい。				
その他 (由緒など)	猫塚古墳は5世紀中ごろに築造された方墳で、石室は竪穴式。五條市教委の2017年(平成29)の調査で、1辺約35m、西側がやや高い傾斜地にあり、高さは4.5mから6.6m、四方に幅2.5mから7mの周濠があったことが確認された。出土品はすべて奈良国立博物館に收藏されており、金銅製の蒙古鉢形眉庇付冑は重文級との評価が高い。				
コメント	この古墳の代名詞ともなっている蒙古鉢形眉庇付冑のほか、金銅製龍文透彫(すかしぼり)帯金具、鉄製鍛冶具一式も出土し、被葬者は大陸や朝鮮半島 とつながりがあり、鉄器生産など先端技術導入に熱心な人物だったとみられている。案内板に蒙古鉢形眉庇付冑の写真と、周濠があったことを示す平面図が載せられているのは分かりやすかった。単に文章だけの案内板が多い中、評価できる。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	8月	22日	記入者	久門たつお
調査者名	大谷	垣内	久門	鶴田	

文化財名	猫塚古墳(奈良市に同名の古墳があり、区別するため五條猫塚古墳とも呼ばれる)
------	---------------------------------------

北東からの猫塚古墳(中央)と説明板	北側から
-------------------	------



東側から

詳細な県教委の説明板



貴重な蒙古鉢形眉庇付冑(県教委説明板から)

方墳には周濠があった(県教委説明板から)

